

読書のススメ

～みんなの読書活動を応援します～



読書の秋がやってきました。普段、本を読みたいと思っても、時間に追われてなかなか読めないという方、この秋の夜長が読書のチャンスです。

元NHKアナウンサーの鈴木健二さんも、ある著書で、「本を読むことに楽しさを覚えるのは、それほど強烈な血の滲むような努力は必要としません。あるとすればキツカケでしょうか、本を手取るキツカケです。それは本屋さんへ行くだけの図書館へ行って見たなど、至って単純なところにあたりするものです。」と述べています。

そこで、今号では、その読書の「キツカケ」づくりのためのヒントを、市立図書館からご案内をします。

毎年10月27日～11月9日の「読書週間」で、ぜひ「読書習慣」を身につけてみてください。



みんなに身近な図書館へ

一昔前まで図書館は、「学生の勉強部屋」とか、「静かに本を読むところ」といった堅苦しいイメージが強く、多くの方が行きにくい所と思っていたのではないでしょう。しかし、今では、日常の楽しみ、調べ物をする場、また、有効な時間を過ごせる場として、市民の皆さんに気軽に利用していただいています。

本に親しむ環境づくり

市立図書館では、常に「市民のための図書館」を心掛け、少しでも利用しやすい図書館づくりを目指しています。そこで、皆さんに図書館の本をより便利に活用していただくために、さまざまな取り組みを行なっています。

本の貸出しサービスは、本館以外でも、市内の公民館(大塚、三谷、東部、府相、形原、西浦)や太陽の家に開設している図書館分室でも行っています。

また、子供たちに本に親しんでもらうために、保育園や児童館の文庫への配本、乳幼児期から読書に親しむ「ブックスタート事業」



いろんな本がありますよ

などを行っています。本好きの間が集う読書会などの活動も支援しています。

児童室では、毎週土・日曜日の午後2時から約30分間、「紙芝居と絵本の読み聞かせ会」を開催しています。ボランティアの方たちにお手伝いしていただき、生の語りで、子どもたちに読み聞かせの魅力を伝えていきます。



子供たちにも読書の喜びを

近年、子供の国語能力の低下が指摘されています。これは、テレビやインターネットなどの情報メ